

あま市民病院だより

★不定期連載 消化器コラム★

第8回 コロナ禍における胃がん検診と大腸がん検診について

皆さんの中には胃がん検診や大腸がん検診の内視鏡検査を、令和元年12月からの新型コロナウイルス感染症の拡大とともに延期された方がいらっしゃるかもしれません。実際に新型コロナウイルス感染症はがん検診にどのような影響を与えたのでしょうか。令和4年12月9日に国立がん研究センターより、がん登録の全国集計速報値が報告されていたので、ご紹介したいと思います。

- ◆令和2年は新型コロナウイルス感染症流行前2か年平均と比較して、がん検診で発見されたがん(胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮頸がん)は86.4%まで減少したが、令和3年には98.8%に回復した。しかしながら、年間合計では1～2割の減少をしている。
- ◆令和2年1月から令和3年12月までの2年間に、新規にがんと診断された登録数をみると、最も減少したのは最初の緊急事態宣言が発出された令和2年4月から5月であった。
- ◆その後も新型コロナウイルス感染症患者数が増加すると、新規にがんと診断される登録数がやや減少する傾向であった。
- ◆令和3年9月以降は新型コロナウイルス感染症患者数が増加しても新規のがん登録数は減少しなかった。
- ◆検診発見例と非検診発見例に分けて、令和3年の症例を感染拡大前の2か年平均登録数と比較したところ、検診発見例は98.8%、非検診発見例は102.2%であり、非検診での検査で発見されるがんが多くなった。
- ◆新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種や院内の感染対策がかなり進んでおり、がん検診は“不要不急”とは捉えずに、コロナ禍になる前と同様に進めていってほしい。

以上が要点になります。私も同じ意見で、可能な限り『早期発見、早期治療』につながるように丁寧な検査を日々おこなっていきたくと思っています。あま市民病院の内視鏡センターを利用いただいた患者様の中には、胃がんや大腸がんと診断される方も多くいらっしゃいます。たしかに非検診の患者様も多い印象です。病理組織診断とあわせて後日結果説明となる場合がほとんどですが、内視鏡検査の直後にも十分な説明をするように心がけています。がん検診や定期検査はとても大切なことなので、しばらく検査を受けてない方は、かかりつけの先生にぜひ相談してください。(あま市民病院では消化器系が専門領域でない先生も病診連携で気軽に内視鏡検査が予約できるようになっています)

コロナ禍における全国のがん登録患者数についてのお話しでした。手洗い、マスク、換気など感染対策やコロナの迅速検査、ワクチン接種などの院内スタッフの日頃の努力のおかげで日常診療が継続できております。ご協力いただいている患者様も含めて感謝申し上げます。

あま市民病院 消化器内視鏡センター長 いわた まさみ 岩田 正己

◇◆◇あま市民病院Facebookのご紹介◇◆◇

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>

公益社団法人
MED 地域医療振興協会

あま市民病院

～市民と連携機関に信頼され、健康と安心を提供する病院～

〒490-1111 あま市甚目寺畦田1番地

問合時間：午前8時30分～午後5時
(土・日曜、祝日を除く)

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>

